



① 鳥はなかまただよ

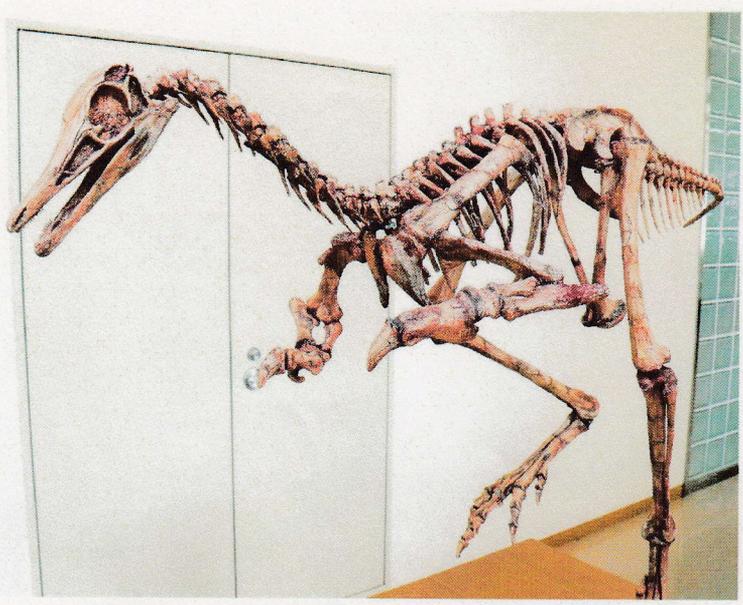
飛べるように進化した

みなさんは恐竜を食べたことがあるでしょうか。私はあります。えっ？ ええ、恐竜の肉はこの

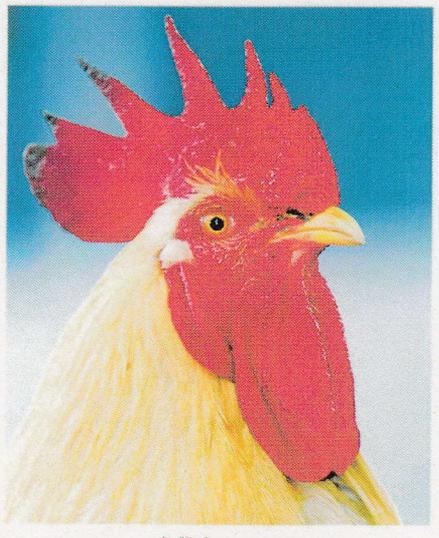
スーパーでも売っていますよ。たいていの食堂やレストランにも恐竜料理があります。その卵はお菓子にも使われています。はい。その恐竜の名は「ニワトリ」。

なあーんだ？ そうですね、なあーんだかもしれません。ニワトリ、カラス、タカ、スズメ…。鳥はみーんな恐竜のなかまです。50年前、恐竜はそのそぶく姿

に描かれ、鳥との関係など話題にもなりません。30年前になると恐竜から鳥類が進化したと考えられ、羽毛が生えてすばしく走り回る恐竜の絵が描かれるようになりました。そして今は飛べるようになった恐竜が鳥類だという考え方が主流になっています。研究が進むと、こんなふうに恐竜の見方も変わっていくのです。数十年前でこれだけ世間の受け止め方が変わった絶滅生物もめずらしいです。さて、あと数十年したらどうなっているのでしょうか？ そんなふうにアッとおどろく見方の変化を起こす発見をめざして、私たち古生物学者は今日も化石研究にいどんでいるんですよ。さあ、それとも恐竜の卵かな？



白亜紀後期に生きた小型肉食恐竜パタゴニクスの全身骨格（レプリカ）。最初は「地面を走りまわった鳥類」に分類されていましたが、後に鳥類でないことが判明。現在は「鳥類を除いた恐竜」の仲間の一種と位置付けられています



「わたしも恐竜のなかまただよ」。ニワトリの頭部（EPA＝時事）



いしがき・しのぶ

1954年、和歌山県生まれ。高校教諭、モロッコ・エネルギー鉱山省研究員などを経て、92年林原自然科学博物館準備室に勤務。同館館長を務めた。2015年4月から岡山理科大学教授。専門は古生物学。理学博士。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

2016年5月15日掲載